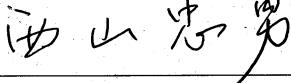


教育委員会会議録

令和7年（2025年）10月定例教育委員会会議

開会日	令和7年（2025年）10月23日（木）											
開会時間	午後2時00分～午後4時37分											
開会場所	SPring熊本花畠町7階D会議室 ※一部オンライン開催 オンラインでの出席者については各執務室											
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">委員会</td> <td>遠藤洋路 教育長 西山忠男 委員 苫野一徳 委員 澤栄美 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>村田楨 委員 清田晃子 委員</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">事務局</td> <td>福田衣都子 教育次長 梶原勢矢 教育次長 中川浩二 教育総務部長 吉田潔 学校教育部長 他</td> </tr> </table>						委員会	遠藤洋路 教育長 西山忠男 委員 苫野一徳 委員 澤栄美 委員		村田楨 委員 清田晃子 委員	事務局	福田衣都子 教育次長 梶原勢矢 教育次長 中川浩二 教育総務部長 吉田潔 学校教育部長 他
委員会	遠藤洋路 教育長 西山忠男 委員 苫野一徳 委員 澤栄美 委員											
	村田楨 委員 清田晃子 委員											
事務局	福田衣都子 教育次長 梶原勢矢 教育次長 中川浩二 教育総務部長 吉田潔 学校教育部長 他											
提出議案	議第64号 熊本市立学校の教育職員の給与に関する条例及び熊本市立学校の教育職員の給与等に関する特別措置条例の一部改正について											
協議	<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和8年度当初予算要求の概要について (2) 令和9年度市立高等学校入学者選抜について 											
報告	<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和7年第3回定例市議会報告について (2) 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について 											
署名	 											
会議録作成者	教育政策課 甲斐 まゆみ											

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長	令和7年10月定例教育委員会会議を開会いたします。
〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長	<p>本日は、私のはか5人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。</p> <p>会議規則第14条第2項の規定に基づき、会議録署名人の指名を行います。会議録署名人は、西山委員と澤委員とします。よろしくお願ひいたします。</p>
〔公開の審議〕 遠藤洋路 教育長	<p>本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、本日の議事のうち、議第64号 熊本市立学校の教育職員の給与に関する条例及び熊本市立学校の教育職員の給与等に関する特別措置条例の一部改正について、協議(1)令和8年度当初予算要求の概要については、会議規則第13条第2号「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」に該当することから、非公開の審議が適当と思います。</p> <p>議第64号、協議(1)につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。</p> <p>(挙手)</p> <p>全員賛成により、議第64号、協議(1)は、非公開とします。</p>
日程第1 前回会議録承認 遠藤洋路 教育長	<p>それでは、「日程第1 前回会議録承認の件」に入ります。</p> <p>9月25日開催の令和7年9月定例教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、ご異議はありませんか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>異議なしと認めます。前回会議録は、承認することに決定いたします。</p>

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

日程第2 事務局報告の件

- ・(1)事業・行事等報告について

《資料机上配付》

西山忠男 委員

教育についての意見交換会とは誰と意見交換するんでしたっけ?ちょっと忘れてしまったので教えてください。

遠藤洋路 教育長

私と校長です。小中学校の校長をだいたい10人くらいのグループに分けて教育長と意見交換するというそういう会です。

西山忠男 委員

分かりました。

日程第4 協議

- ・協議(2)令和9年度市立高等学校入学者選抜について

《榎木敏之 指導課長 説明》

西山忠男 委員

必由館の文理コースの変更ですね。前期選抜も実施するという変更ですが、県立高校が改革を見送った以上、そうせざるを得ないと思いますけど、必由館の校長先生からも直接ご意見を伺いたいと思いますけど、いかがでしょうか。

佐藤宏一 必由館高等学校副校長

本日校長が不在ですので、副校长の佐藤と申します。代わりにお答えします。

もともと必由館高校は前期選抜、全コースで実施を考えていました。県の動向を踏まえて一旦は前期選抜は文理コースはなしということになったんですけど、改めて県の動きが変わりましたので、文理コースも前期選抜が実施できるようになったということを前向きに考えています。

前期選抜が実施できることで、後期選抜は学力検査が入ってきますけど、前期選抜では特色をより重視した入試が行えますので、より多様な生徒の入学が期待できるのではないかと思っております。

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

西山忠男 委員	県立に合わせて後期に一本化するという話は、まだ一般には公表していないと思っていますけど、それで正しいでしょうか。
佐藤宏一 必由館高等学校副校長	必由館高校ですか。
遠藤洋路 教育長	教育委員会会議で一回議論していますよね、公開で。
西山忠男 委員	私が心配しているのは、変更変更ということで混乱が生じていないかということをちょっと心配しているんですが、その点いかがでしょうか。
榎木敏之 指導課長	一応、昨年度末の3月に教育委員会会議でその方向は示しているところですけど、学校にとっては、今、入試制度自体が現行でずっと進んでいますので、それを継続するということで混乱するということはないと考えております。
西山忠男 委員	分かりました。
遠藤洋路 教育長	必由館としてはもともと前期・後期やったほうがよかったということですから、その方向でということなので問題ないかなと思います。 ほかに本件についてご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。 では、ほかにないようでしたら本件は以上といたします。

日程第5 報告

- 報告(1)令和7年度第3回定例市議会報告について

《資料事前配布》

西山忠男 委員	何ページでしたか、ちょっと分からなくなりましたけど、沖縄の遺骨収集を修学旅行で実施してはどうかというご意見が出ていると思いますけど、修学旅行で沖縄を対象とするというのは一つのよい案ではないかというふうに考えますけど、遺骨収集となりますとやはり相当ハードルが高いような気がいたします。やはりしっかり戦争と平和、沖縄戦について生徒たちに学
---------	---

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

	習させた上で実施しないと相手方にも失礼になるんじゃないかなと考えたところでございます。
遠藤洋路 教育長	3ページですね。
西山忠男 委員	3ページですか、すみません。議員の方がどういう意図で言われたのか、この質問ではよく意図は分かりませんけど、教育的な効果は確かにあるだろうと思いますけど、市内の全中学・高校が一斉にそういうことで修学旅行に行くというのも非現実的なことですから、この辺は少し慎重に考えたほうがいいんではないかと思いました。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 答弁したのは私ですが、議員の質問の趣旨としては、以前、議員が沖縄に遺骨収集に行かれたことがあって、非常にそれが有意義だったので、こどもたちにも同じような体験をさせてあげられたらというような趣旨ありましたけど、やはり今、西山委員がおっしゃったように、現在、この沖縄で遺骨収集、特に中高生対象というのはそもそも実施をしていないということありますので、熊本市で独自にということも非常に難しいでしょうし、様々な面もありますので検討はしていきますけど、現状、それをすぐに実施するという状況にはないと考えております。
西山忠男 委員	教育委員会としても数年前に沖縄に視察に行って、平和教育について学んできたところでございます。それは非常に私としては有意義な体験だったと思っていますので、沖縄を修学旅行先に選ぶというのは非常に、お金がかかりますけど、お金の問題さえなければいいことだとは思っています。それには美ら海水族館みたいな非常にすばらしい水族館なんかもありますから、ああいうのをこどもたちに見せられる機会があるならすばらしいと思いますけど、遺骨収集についてはちょっと今申し上げたとおりでございます。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございます。 修学旅行で沖縄、これまでも事例はあるんですが、飛行機で行くことになるので、天気が悪いと行けないとか帰れない。日程上の部分があったりということで、数としては多くないのが

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

	現状ですけど、これに関して、指導課長、沖縄の修学旅行というのに行っているところはあるんですか。
榎木敏之 指導課長	令和7年度、今年度に限っては、沖縄は2校ございます。関西方面が中心なんんですけど、広島を経由して関西へ行くというところも十四、五校ありますので、沖縄が全くないわけではありません。数的には少し少なくなっている状況です。
遠藤洋路 教育長	おっしゃるように意義はあると思いますので、交通の便とか、そういう点が工夫できるんだつたらいいことかなだと思いますけど、ほかにいかがですか。
澤栄美 委員	7ページの不登校対応サポーターの効果と今後の配置計画を尋ねるというところなんですけど、その3行目のところに、生徒568名のうち約12%の生徒が通常学級での活動に移行しているというように書いてあるんですけど、やはり何%と出すときにはそれまでと比べる必要もあるのかなと思ったので、前のデータが分かるならば教えていただきたいと思ったんですが、いかがでしょうか。
遠藤洋路 教育長	前のデータというのは、何の前ということですか。
澤栄美 委員	多分これは令和6年度に不登校サポーターが対応した生徒568人のうちとありますので、その前の例えば令和5年とか令和4年、どのぐらい教室復帰したのかという、それですね。
勝田広幸 総合支援課長	令和5年度、令和4年度以前のデータがあるか、確認させてください。今、手元にございませんので、ありましたらまたお答えします。
澤栄美 委員	分かりました。 前よりパーセンテージが上がっていれば、それで効果があると捉えられるのかなと思いましたので、分かったらお願ひしたいと思います。
	同じところで、下のほうに各学校の実情に合わせて不登校対策サポーターを順次配置とありますが、以前から何回か申し上げているんですけど、小学校にこそ配置が欲しいんじゃないかなと思います。

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

というのは、子どもから教師への暴言・暴力、この言葉は暴言なのか、暴力なのかというのを聞こうかと思っていたんですけど、その話合いのときにもちょっと話が出ていたんですけど、先生方が中学校だと空き時間の先生方で対応するとか、そういったこともできるけど、小学校の場合は空いている教室自体もなかったり、小さい学校は児童数が減っているところはある程度ありますけど、対応できる人がいないという状況から、小学校にこそ配置が必要なんじゃないかというそんな話もしたんですけど、そのあたりとかあるいはそういった子どもたちが出てこないように1次予防的な働きかけ、働きかけというより活動をする必要があるんじゃないかということを何度か言ってきたことがあるんですけど、その辺については、今、総合支援課ではどんな方向性が出ているかということを教えていただきたいと思います。

勝田広幸 総合支援課長

現在21人の不登校対策サポーターを中学校へ配置しておりますが、活動の拡充で各小学校にも出向くことを現在考えているところでございます。

小学校への配置もかなえられればいいんですけど、現在、私どもでは中学校への配置、それから各小学校への出向きというところで充実を図ってまいりたいと考えております。

澤栄美 委員

これは議員さんのお答えに対して私が思ったことではあるんですけど、ぜひ小学校に出向くというのもなかなか時間的に、どの時間に行くのかとか、そういう問題もあると思いますので、実現可能な形で小学校の先生方のご苦労の手助けになるような形を取っていただけたらと思います。

1次予防についてはどうなんでしょうか。

この1次予防という意味合いは少し違うかもしれませんけど、例えば前回のときに横浜の子どもの社会スキルプログラムのようなものを紹介しましたけど、子どもたちが学級の中で一人一人が認められるような活動を実施したり、あるいはL Dがある子どもが見逃されて中学校ぐらいになってしまふ勉強が分からなくて不登校になっていくという例も非常に多く感じますので、そういう事が起きる前の方策みたいなことについては、今後考えていくっていただけるのかということをお尋ねしたいです。

勝田広幸 総合支援課長

これは不登校対策サポーターというよりも、学級支援員の業

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

	務にもなてくると思っておりますので、そういうところをしっかり充実させていければと思っております。
澤栄美 委員	そのうち具体的な中身を教えていただけたらと思います。検討していくということですので、よろしくお願ひします。
遠藤洋路 教育長	ほかの項目でも結構ですけれども、ありますか。
澤栄美 委員	これはこの議事録に直接関係しているわけじゃないんですけど、給食室のエアコン、クーラーの設置のことですが、このことで私の知っている岡山の方なんですが、給食設備に関する事をNPOみたいな感じでやっているいらっしゃる方と話したことがありまして、そのときに聞いたのがクーラーをつけることで温度は下がるし、エアコンだから換気的な部分もできるとは思うんですけど、結露がすごくなるということを聞いたんですよ。そうすると結露によっていろんな食品への影響とか、そういうものもあるということだったので、これを読んでそのことを思い出したので、今後、そういうことがないか、新しくついたところでの状況なども調べていったほうがいいのかなと思いましたので、そのことをお伝えしておきたいと思います。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 今の点、健康教育課から何かありますか。エアコンをつけた後の結露とか、何か課題があるかということかと思いますが。
草野陽介 健康教育課長	結露については、確かにエアコンの空調、湿気が高いところで運用した場合、そういうデメリットもあるとは聞いております。これについては、来年度以降、エアコン自体の保守点検などもしっかりとやっていきながら、また、まだ94場中30場、夏休みについて、残りの64場については11月から本格的につけていくような形になります。全体としては来年の夏からの運用が本格的になるのかなと思っておりますので、現場の調理員さんの方から意見を聞きながら、対応が必要なものについてはしっかり対応していきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	これまで30場つけたところでは、何か調理員さんからの声というのはありますか。課題ということではなくて、全体的な話でもいいんですけど、つけた後の状況はどうでしたか。

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

草野陽介 健康教育課長	確かに結露は水分、それが垂れてくるというようなお話がありましたので、そこについては設置工事の中で対応していただいたところがあります。
遠藤洋路 教育長	エアコンをつけたことによる効果とか、よかったことというのはどんな声があるんですかね。
草野陽介 健康教育課長	効果については、これはつけていない頃は室内の温度が40度を超えるようなところがあったということもありまして、今回つけたことによって約10度ぐらい落ちたということでお話を伺っております。非常に調理員さんたちも喜んでおられるということで、64場についても今後しっかりと対応していきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 全体としてはつけた効果があって大きかったと。いくつか課題はあるけど、つけただけのことがあったという、そういうことですかね、今の話だと。分かりました。
村田槙 委員	20ページのすぐーるのアプリについての質問があって、応答のところに慎重な検討が必要と書いてあるんですけど、学校からの緊急のお知らせ、台風のときの休校とか、以前の地震のようなときとか、そういう確實に各家庭に届くように使用されているものだと思っているので、このコミュニティというのが確かに全く使われたことがないなというふうに思って見ているんですけど、今後どういう使われ方になるかというのは分かりませんけど、大切な学校からのお知らせなどが気づかれにくくならないような、そういう伝え方になっていくといいなと、これは要望ですけど、思いました。 全く変わって、27ページ、PTAのことについて書いてあって、以前からこういうやり取りを報告のところで拝見していると、やっぱり入っている人が善で、PTAに入っていない人が悪というふうにどうしても読めてしまって、加入率の危機感とか、その必要性というのはもちろん分かっているんですけど、じゃ、どうしてここまで加入率が下がって、それは何がいけなかったのかということを先に考えないといけないと。全国的にニュースなどで問題になった会費の横領とか、強制参加とか、

よく言われる同調圧力とか、私、PTAの役員も何年もやりましたし、逆に非加入も経験しましたので、PTAの方々あるいは役員の方々がどんな気持ちで日々こどもたちのために活動をしてくださっているかもよく見てきましたし、逆に非加入になった方あるいはそもそも最初から非加入の方というのがどういう気持ちで選択をされたのかというのも両方分かるなと思って、入らないイコール間違っているわけではないんですね。

だからこの国家の弱体化につながると書いてありますけど、入っていないあるいはそもそもPTAとしての組織がない学校、そういう選択をした学校もあるので、弱体化につながるまで言い切ってしまうのはそういう選択をした学校や保護者に対してちょっと失礼になってしまふんじゃないかなと思いました。

信頼できると思ってもらえたなら協力したいというふうにおのずと思ってくれる保護者も増えると思うので、今、在り方について考える、連携について考える会というのが開催されていて、そこには学校の先生方とか、PTA関係者だけじゃなくて、非加入の選択をされた方も委員に入っているということなので、ぜひそこでたくさん議論をしていただきたいなと。ここの自由討議では、そういう選択をしなかった側の学校とか保護者の話はお聞きすることはできなかったので、そこではぜひたくさん議論をしていただきたいと思います。

何度もしつこく言ってきているんですけど、先生方の中にも非加入という選択をされた方がおられるんですよね。今ちょうど私も昨日アンケートが配信されて回答したんですけど。どういう形でそれが公表されるかというのも分かりませんけど、非加入の保護者だけじゃなくて、先生方が保護者より圧倒的に数が少ないとと思うので特定されたりとか、臆測で誰かに責められたりとかするようなことが決してないように公表にはちょっと配慮をお願いしたいと思います。長くなりました。

宮本義久 地域教育推進課長

ご意見ありがとうございます。今、家庭と学校との連携を考える会を、まず2回開催しました。当然委員からお話をあったようにPTAに入っていらっしゃらない方のご意見、それからもう既にPTAという組織がないという学校の校長先生であったり、あるいは保護者の方、いろんな立場の方からご意見をいただきながら、学校と家庭との連携を活性化するにはどうしたらしいのか、そういう視点で話を進めてもらっているところで

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

ございます。

現状、新しく実態を問うためにアンケートを作成しました。そこからまた見えてくるもの、活性化につながるというところで見えてくるものというのが今後の会議の中で話が行われて、何らかのそれぞれの立場でできることが見えてくることを期待しているものでございます。また、今後ともいろいろご意見をいろんな方から伺いながら進めていきたいと思っております。

遠藤洋路 教育長

分かりました。

P T Aというのは任意団体なので、教育委員会がそこにどこまで踏み込むかというところは難しいところがありますが、P T Aに入っている人、入っていない人も、いろんな立場の方に来ていただいて議論したらお互い理解も深まって前向きな議論ができるんじゃないかなということでつくったんですけど、今のところ非常につくったときの期待といいますか、趣旨に沿ったようないい話合いができているんじゃないかなと思っております。ぜひこれを続けていってもっと今後いろんな人にとっていい形になっていけばいいかなと思っていますので、ぜひ委員の皆さんも注目していただけすると非常にありがたい。

西山忠男 委員

私もP T Aの役員をしましたけど、やはりP T Aをやる上で最大の問題は、やっぱり昼間働いている人はなかなか参加できないということなんですよね。女性の社会進出が進んで共働きの家庭が増えるとP T Aに割く時間がないという家庭が非常に多くなっているのが実態ではないかと思います。

私の場合も、妻も働いていて私も日中仕事なので、結局広報委員長という形で広報紙を作成する、これは祝日とか、土日とか、夜の時間とか利用すればできるので、そういう形で参加させてもらったわけですけど、P T Aの会長や副会長をやるような人たちは自由業の人が多いんですよ。割と昼間自由に動ける人じゃないとそういう役が務まらないということがありますので、そういう方たちが日中働いている人たちにも配慮するような運営方法を考えてくれたらもっと参加しやすくなると思うんですよね。そこが大きく対立するわけですね。だから日中働いている人たちは、あの人たちは昼間自由に動けるからやれるんだよねと、でも僕らにはそんな時間はないので、それに対する配慮もないと言って、じゃ、もう参加できないよというような感じになってしまふ。そこで対立がどうしても生じてしまう

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

んですよね。そういうことにやはり学校ごとのPTAで参加者を増やすにはどうしたらしいかと、そういう働いている人たちも参加できるような形態の運営方法というのをやっぱり考えてもらうべきではないかなと思いました。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。

清田委員はまさにお仕事とPTAの役員を両立してやってこられましたけど、どうしてそんなことが可能なんですかということでもあるし、何かこういうふうにしたらいんじゃないかというお話があればぜひ伺いたいんですけど。

清田晃子 委員

私は働きながらPTAを、日中はフルタイムで働いておりますので、夜の活動がメインにはなるんですが、土日の活動に積極的に参加はしているんですけど、やっぱりPTAも賛否両論だとは思うんですが、私も最初は嫌々やっていたほうなので、嫌々でも活動に参加することで広がっていたものがあったので、その楽しさを見いだしていくので、PTAが楽しい、PTAの役員がみんな楽しそうに活動しているというのをもっと見せていく、PTAのよさをもっと私たち側が発信していくなければいけないのかなというふうには感じています。

遠藤洋路 教育長

昼間フルタイムでお仕事をされていて、どうやって時間を両立されているかなというところだと思うんです。

清田晃子 委員

そうですね。かなり家族の協力、理解が必要でしたし、こどもには毎年、またPTAを続けるかもしれないけど、大丈夫かなというのは確認を取って、あとは本当に家族の協力は必要だったなど今振り返ると思うんですけど。

そうですね、日中は確かに活動はできないんですけど、話しとかは夜開催されることがほとんどなので、その単位PTAのほうでは夜の活動になりますし、みんなでPTAの執行部のメンバーの働き方を見ながらできる仕事をやってもらうというふうにみんなで割り振ってやっていたので、負担にならないよう一人一人が、誰かに負担がかかり過ぎないようにここはちょっと分担したほうがいいんじゃないかというのはみんなで話し合いながらやってきていたので、あまりそんなに負担になることは少なかった感じです。

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

遠藤洋路 教育長

分かりました。ありがとうございます。

今、共働きの方が非常に多いというか、そちらのほうが多いので、ぜひ清田委員のやられてきたようなPTAの参加の仕方というのは、ほかのところでもできるように参考にしていただければ、今、西山委員がおっしゃったような自営業の方、自営業の方しか役員ができないみたいな、そういうことはなくなってくるということだと思いますので、そこはそれぞれ、清田委員があっしゃったように、現に役員になっている人の仕事とか、働き方とかに合わせて活動する、組み立てるという、そういうやり方なんでしょうね。ありがとうございました。

澤栄美 委員

随分前のことなので大分忘れているんですけど、私も日中働いて振ってきたやつはやっていた身です。夫は残業が多かったので、例えば保育委員で市Pバレーの練習のときとかは私は赤子を抱えてお世話っていました。それはやっぱり学校に勤めている者としてそういうこともしなければならないという思いもあったし、やっぱり広報委員とかいう形で原稿を書くことをやったりとか、私たちの頃は一人一役というのがあって、できることをやりましょうということで、できる仕事をつくっていって、それで自分がPTAの仕事をやったことで理解できるというところがあると思うんですね。どうせあの人たちは好きだからやっているんでしょうみたいな、そういう言い方をされる人もいるけど、やっていないのにそういうこと言わないでという感じのところもあって、だから決して昼働いているから私はできないんですということはないと思うんですよね、それはもう内容次第であって。苦野委員もPTAの副会長とかもされていたし、それはもう理由にならないんですよね。だけど、やっぱりいろいろ家庭のご事情があるので、できる形でということで実際に一人一役といつても結局は何もしなかった人とかいらっしゃいますので、そこはもうしようがないなというところで、何かやってみたらこれはよかったというような中身を考えていくということが大事かなと思いました。

村田楨 委員

今、澤委員のお話の中にもありましたけど、あの人たちが好きだからやっているんでしょうとか、やりたいからやっているんでしょうというのはよく自分も言われるところもあったんですけど、大変な中でも引き受けてくださる方々、すごく真面目で一生懸命してくださるんですよ。でもそうなればなるほど結

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

束も強くなってとても仲よくなるし、絆が深まるので悪いことじゃないんですけど、その姿を見ているとあの中に入ったらもう抜けられなくなるんじゃないかという、そういうふうに思われてしまうんですよね。結局そういうふうに思われて敬遠されると次の方が決まらないで、やっぱり一生懸命頑張ってくださっている方々が引継ぎできなくて、もう少し頑張ろうということで同じ方がずっとやることになっていくとますます何年も好きだからやっているんだというふうになってしまって、清田委員もおっしゃったみたいに活動をしていてやりがいとか、どういう思いでやっているかというのがもうちょっと見ていて伝わる発信ができれば理解も深まるのかなと思うんですけど、最初から一回入ったらもう抜けられないみたいな、そういうイメージですね。どうやったら払拭できるのかなと。自分はそういうふうに言われた側でもありますし、実際に抜けられなくなった側もあるので、耳が痛い話だなと思いながら聞いていたんですけど、そういうところでもっと発信とか、周知とか、そういうのが一番最終的にそこにたどり着くのかなと思いました。

遠藤洋路 教育長

分かりました。

皆さん、教育委員さんがPTAの役員とか、活動をされたいの方ばかりですもんね。私だけですね、やっていないのは。PTA、真面目に一生懸命しないと教育委員になれないわけじゃないんですけどね。いや、皆さんやっぱり一生懸命やってこられたからこそその言えることというか、あるでしょうし、分かることもあるでしょうし、非常に参考になりました。

PTAといいますか、家庭と学校の連携の会も皆さんもし時間があったら見に来ていただいたりあるいは参加していただいても構わない、ご意見もお聞かせいただける機会があるといいかなと思います。よろしくお願ひします。

西山忠男 委員

21ページに学校図書について意見が出ております。5年ぐらい前でしたかね、熊本市の学校図書は非常に少ないということが報道されて何とか増やさないといけないという話が出ましたけど、ここの議員さんたちの意図がまだよく分からんんですけど、図書を増やせばいいかというとそういう問題でもないと私は思うんです。いかにその図書を活用するかということが大切で、学校で図書の活用方法を生徒に教えるということはと

ても大事だらうと私は思っています。

数年前、理科の教員採用面接をしたときに臨採を何年かした人が出てきたので聞いたことがあります。生徒さんが道端の雑草の花を摘んできて、この花の名前は何ですかと聞かれたらあなたはどうしますかと聞きました。そしたらその方はこう言われました。写真を撮ってグーグルで検索します。はい、賢いやり方です。それは一発で名前は分かります。でも名前が分かつただけで終わってしまうんですよ。だからそれじゃ駄目でしょうと私は言ったんですよ。一緒に図書室に行って図鑑を広げて、その名前が分かった花を図鑑で一緒に見るようにしてくださいと。図鑑を広げると動物から花の項目が属種という分類があつて、その属レベルのいろんな仲間の絵が載っているから、何を基準に分類されているかとか、どういう仲間がいるかというのはすぐ分かります。そういうところから興味が広がっていくんじゃないですかと申し上げたことがあるんですよね。そういう教え方をしないと名前が分かつただけでそれで終わってしまう、知識・興味の広がりようがないんですね。図鑑の活用というのはまさにその知識の広がりというところにあるわけですから、そういう活用方法をしっかり教えてもらいたいと思います。

これは理科の事例ですけど、そのほかの教科でも図書をどういうふうに活用するかということを先生方がしっかり考えて、図書館の活用方法に教育の効果というのを高めるように考えていただければと思います。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。

おっしゃるように以前、熊本市の学校図書の予算というのは非常に少なくて、増やしたんですけど、まだ非常に少ないほうだという事実は確かなので、そういうご指摘は真摯に受け止めていかきやいけないと思っています。ここにありますけど資料補助ですね。どちらかというとこれまで活用、少ない本を今一生懸命活用するということで人のほうに重点を置いて整備をしてきたけど、それはやはり必要で、本があつても活用されないと意味がありませんから、それは維持しつつ、いかに図書の購入を充実していくかというところがやっぱり課題かなと思っています。ご意見を踏まえて今後も充実できるようにしていきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、ほかにないようでしたら、本件は以上といたしま

す。

・報告(2)令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

《模木敏之 指導課長 報告》

西山忠男 委員

6ページでご説明いただいた新しいグラフ表示の方法、これは非常に分かりやすくてよいと思ったんですが、既に五、六年前から本市は成績上位層の人数が少ないあるいは成績上位層の学力が相対的に低いということが分かっていたんですよね。なぜかなとずっと私考えていたんですけど、教科でいうと国語、理科は小学校も中学校も変わらないのに算数と数学でその差が出てますよね。

ということは、これはひょっとしたら塾に通っている、通っていないか、要するに塾に通っている生徒が多いところは成績が高くなっているんじゃないかという推測を持ったんですけど、例えば東京とか、大阪とか大都市と比べてみるとどうなんでしょうね。そうするとはっきり分かると思うんですよ。どうでしょうか。模木さんは数学の先生だからご意見があると思いますけど。

模木敏之 指導課長

文科省が公開した資料に、全国各都道府県と政令市の結果を並べたグラフがありますが、それを見るとやはりいくつかの都市は少し上位層が少なかったりというところが東京であったり、大都市であったりというところはありますけど、その原因が塾に通っていることが大きな要因かというところでは、根拠としてはまだ持っていませんので言えないところなんですが、その傾向はあるかもしれません。

塾に通っているというより、そういう学習環境、そういう学習を重視した1日の生活プランをつくっていると。そういう子は塾であれ、家庭であれ、そういう学習習慣を必ず学校の勉強以外に位置づけて過ごしているということであれば、上がっていく要因かなとは考えているところです。

西山忠男 委員

塾に通っていること、通っている生徒さんが多いということが成績がよい理由だとしたらそれはそれでいいと思うんですけど

ど、もしそうでないとしたら本市の教育に問題があるということなので、これは非常に大きな問題ですよね。榎木さんは数学の先生だけど、数学の教え方が悪いということになってしまふわけですね。だからそのあたりはどう考えておられるんですか。

榎木敏之 指導課長

あまり個人的な思いだけでは説明できないんですけど、私が思うのは、授業をするときに非常に今、多様な子たちが増えていますし、それは教科の力もありますけど、なかなか支援とか配慮が必要な子も当然たくさん入ってきて、授業を進めるときにどのくらいの難易度の問題を扱うかとか、どれくらい考え方をさせる時間を与えるかとか、そういう授業設計は教員が中心に計画を立て実践していくことになるんですけど、そのターゲットゾーンというのがどうしても分からぬ子を目の前にしてどんどん先に進むということできませんので、学校というか、授業というのは基本的に分かる子よりも分からない子にゾーンというか、対象を当てていく傾向があるわけなんですね。そこが強過ぎると力のある子はあまり面白くないというか、授業でもっと挑戦したいところができないとかいうことになってきますので、やっぱりそのあたりで授業改善を一緒にしながら、自由進度学習とか今出てきていますけど、そういう考え方を単元の中に位置付けながら、どんどん挑戦していくよみたいな、自分に合ったペースで学ぶというような部分をどうつくっていくかというところをしっかりと考えていく時期に今差しかかっているのではないかと思っているところです。文科から10月15日付で通知が来て、令和3年度と比較して全国的に基本的概念の理解・定着や家庭学習との効果的な連携とか、読解力、記述力等について課題があり、令和3年と比べて全国的に下がっているという内容で、文科省が今回は教職員が誰でも参加できる研修を打っていくということでした。教育委員会においても結果を踏まえた取組をする予定ですが、文科から直接この全国学調の結果を踏まえ、どう改善していくかというのを教職員も皆参加できる研修を実施し、また教科別にも研修に参加できるようなことを考えていますので、やっぱりどこの都市でもそういう傾向があるのだと思います。熊本は相対的にはもっと落ちているのかもしれないんですけど、そういう多様な子たちが学ぶ中でどういうふうに授業をしっかり組み立てていくのかというところが問われてきているのだろうと思います。あと話が長くなりましたが、このような状況を踏まえ

て、教育センターと指導課で特に国・数・英に関してどうやって基礎的な力をちょっと下降傾向にあるところをしっかり高めていくかということを授業改善の授業づくりも含めて検討していこうと今相談しているところです。

西山忠男 委員

私も教員ですからおっしゃることはよく分かるんですよ。多様な生徒が増えている。教えるときはどうしても分からぬ子を分からせようとする、そこに焦点が当たってしまう。全くそのとおりなんですけど、それはどこでも一緒なんですよ。どの都道府県でも同じなんですよ。それなのにこれだけ歴然とした差が出たのはなぜかということを私は問いたいわけですね。しかもそれは五、六年前から分かっていたんですよ。それが一向に変わっていない、どうしてかと不思議でたまらないわけですよ。先生方も努力されていると思うんですよ、もちろん。だけど、どうして算数・数学でこんなに差が出ちゃうのかなと不思議でたまりません。だからそこはしっかり検討していただきたいなと思います。よろしくお願ひします。

遠藤洋路 教育長

塾の影響というのもあるかもしれませんけど、これを見ると国語と理科は全国とあまり変わらない結果で、塾の影響が算数・数学だけに出るものなのかなというところが私も分からないのと、また、確かに先ほど指導課長が言った全国の都道府県の比較というか、同じようなグラフを見ると、中学受験がすごく盛んだと思われるようなところは、小学校の上位層というか、それが非常に高いんですよ。だからそこが塾に関係しているのかもしれないなと思いましたけど。全国と比べて熊本が特に塾に行っている率が低いというわけでもないと思うので、どこまで塾の影響があるのかというのは、これだけでは分かりませんけど。西山委員もおっしゃったように、苦手なこどもに焦点を当てるというような、全国どこの学校もそうなんでしょうが、熊本の学校はそうだけど、ほかの学校はそうじゃないという感じでもないでしょうし。現にこのグラフを見ても苦手な層というか、学力が低い層はそんな全国も熊本も見事なぐらいいじぐらいの割合なので、そこは全国平均も熊本も同じようにやっているわけなので、上位層、特に算数・数学の上位層への対応ということができていないというのが事実としては、ここから読み取れるのは、そこなんでしょうか。ぜひそれは指導課、教育センターでも、ほかの県あるいはその部分が非常によくできて

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

いるところを参考にできるところがあれば学んでいくって、そして改善していくということだと思うんですけど、どうでしょうね。

算数・数学だけこんなに差ができるものなのかなというところはどうなんでしょうね。ほかの教科と何か違うんですか。どうなんですかね。

様木敏之 指導課長

特にそんなに違いは、授業自体を見ると違いはないと思うんですけど、系統性が非常に強い教科であるというのはちょっと特徴はあるのかなとは思いますけど、そこまで例えば理科、国語は系統性がないというわけではありませんので、そんなにそれが理由でこうなったということはないと思います。

ただどちらかというと、低い子の割合が非常に大きいというわけではありませんので、高い子を伸ばせていないというところに課題がありますので、そこは授業の内容というか、手応えのある問題に直面する割合が少ないと、そういうこともあるかもしれませんので、そのあたりは、今、関係課でこれはどうにかしていこうと話をしているところです。まずはこういう中でも伸ばせている学校が熊本市にもありますので、そういう学校でどんな工夫をやっているのか、そこを横展開してこういうところで上位層が伸びているというのをいろいろ情報共有しながらいけたらと考えています。他都市の情報もしっかり入手しながらいきたいと思います。

西山忠男 委員

算数とか数学とかいうのは勉強すればするほど必ず力がつくんですよね、目に見えて力がつくんですよね。その理由は、問題を解けば自然と分かっていくからなんですよ。国語とか理科というのはなかなかそう簡単に勉強したからといって力がつくとは限らない科目なんですよね。だから私は多分算数・数学でドリル、問題を解かせる時間、解かせる数とか、そこに課題があるんじゃないかなという気がするんですよね。教科書はいい教科書を選んでいますよね、いつも。かんかんがくがくの議論をして教科書が悪いと思わない。解かせる問題数、ただ教えているだけじゃ駄目で、やっぱり生徒が手を動かして問題を解かないと力はつかないんですよ。その時間をしっかり確保することが大事じゃないかなと思います。

遠藤洋路 教育長

あと、すみません、私が1つ質問なんんですけど、この5ペー

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

	ジのグラフ、正答率の分布、生徒数の総分布というのがあって、正答率の分布のほう、グラフがありますけど、この下に数字がでていますよね、第3四分位とか。小学校の国語と理科と、それから中学校の国語は、この数字を見ると小数点までぴったり熊本市と全国、全部一緒なんんですけど、こんなことはあるのか。ここまで一緒なのかと思うんですけど、算数・数学は違いますよ。もちろん違うんだけど、コピペをミスったんじゃないのかというぐらいぴったり一緒なんんですけど、これで大丈夫なのか、合っているのか。
模木敏之 指導課長	今、改めて見て、これは文科省がつくられているので間違いないと思って見ていましたんですけど、確かに小学校も中学校も一緒ですよね。中学校は少し違う。
遠藤洋路 教育長	中学校は国語だけですけど、ぴったり一緒なんですね。
模木敏之 指導課長	そうですね。あまり確率的にはこんなことはないとは思うんですけど。
遠藤洋路 教育長	いや、でもこれが違ったらそもそも今言っている議論の前提が違うから。
模木敏之 指導課長	都道府県と政令市別に個別に送られてきていますので、これはバックデータもありますので間違いないとは思いますけど。
遠藤洋路 教育長	じゃ、熊本市は、国語と理科は全国平均とぴったり一緒の分布になっているという珍しい自治体だということなんですかね。
模木敏之 指導課長	そうですね。 バックデータをもう一回ちゃんと確認してみます。
遠藤洋路 教育長	間違ってはないんでしょうけど、分かりました。
澤栄美 委員	話を聞きながらこれから求められる学力ということについても今後考えていく必要があるのかなと思ったりしながら聞いていたんですけど、また別件で私がいつも気になっているのは、この定数のところじゃなくて、ＩＣＴの活用で、とても熊本市

は活用しているんだけど、みんなと一緒に勉強するとき意見が言えていますかとか、そういう項目があるじゃないですか。あれが毎回低いんですよね。そこがちょっと気になるなと思っていて、今度、新潟の行政視察に行きますけど、私は大野小学校を視察するのをとても楽しみにしていて、それはリーディングDXの文科省の指定校でありながら、自由進度学習と自己調整学習をやっているということで、先ほど榎木課長から上位の子どもたちよりも下位の子どもたちに合わせていると上位の子どもたちの伸びが少ないんじゃないかなという話もありましたけど、子どもたちに合わせた授業形態とか、そういうものを今後また熊本市の中でも検討していくという意味では、今度の新潟の視察というのは非常に参考になるものかなと思っています。

この間、オンラインで受けた研修の中で、その自由進度学習、間違っていませんかみたいな本を書かれた樋口万太郎先生の講話だったんですけど、自由進度学習という言葉だけが先に行つて、ただ自由にさせとけばいいというような感じになっていたいのかという大ざっぱに言えばそういう内容だったんですけど、子どもたちそれぞれの特性とか、認知能力とかに合わせた授業というのを今後、授業内容として検討していくというのは熊本市でも必要かなと思っています。

ICTを活用しているからとても活発にしているように見えるというだけではなくて、やはりICTはあくまで道具、文房具と一緒にのようなものなので、そこでの授業改善というのも熊本市ではどれくらいできているのかというのを視察の中身も含めて今後検討していくけたらいいかなと思っています。

苦野一徳 委員

今のお話にも関係するんですけど、この全国学調を受けて何にどう活用するかというのがポイントだと思うんですよね。そのときに私いつもしつこいんですけど、これで予算を取るというのが一番使い道として大事だと思うんです。毎年とにかく先生方が自分で自分の学びを深められる研修のお金を先生方が自分で視察に行くにしても、とにかく研修は悉皆集合、手挙げ方式で、主体的・対話的で深い学びを実現するためには先生方が主体的・対応的で深い学びができる、やらされ研修じゃなくて、だから今回のこれを受けて、はい、算数・数学、こんな効果的な研修をするから来なさいよじゃなくて、こんな算数・数学に特化、主体的・多様化で深い学び、こういったものがどういう

ふうに実現できるかというのをみんなで対話しながら考え、先進事例から学びやっていく。

今、自由進度学習の話もありましたけど、これは他自治体のいろいろなケースで、例えば自由進度学習って手法を渡してしまうとやっぱりすぐ頓挫するんですよね。それは手法に走ってしまうので、こういうのを教育委員会は求めているんだな、じゃ、この方法でやろうみたいな、結局自分で考えながらやっていくんじゃないくて、型通りに進むみたいなことがすぐ起こっちゃうんですよね。

そうじゃなくて、どうすれば本当にこどもたち一人一人が自分のペースで、自分に合った学び方で深く学んでいけるかということをゼロからというか、しっかりとベースから考えていくという、こういう研修がとても有効だなと思うんですよ。対話しながら学んで、実践してまた持ち寄って、フィードバックし合ってまた実践してという、こういう自主的な手上げ方式の研修が非常に有効だなというのはいろんな自治体で感じていますので、例えば毎年そこに予算を取りたいと言いながら、説明しながらなんんですけど、例えばそういう形でこれは使うのも私はいいんじゃないかなと思うんですね。

こういうきっかけが出ているから、これはしかも澤委員がおっしゃったように、ICTの活用がこれだけ全国に比べて断トツに高いにも関わらず、本来だったら主体的・対話的で深い学びを相關しないといけないのに、これがマイナス効果になるというのを本来おかしなお話ですよね。この課題がこんなにあるよということはアピールポイントになると思うんですね。だからこういったところに予算を割く必要があるんだという、そういう材料を使っていくのはいいんじゃないかなと思った次第です。

榎木敏之 指導課長

ありがとうございます。

苦野委員のおっしゃった内容をしっかり我々、今後検討していくので、どんな形で、今、視察の予算は先生方が手を挙げて行ける分が取れなくてもすぐ取れない場合は、我々が見てそういうような形をつくって、どんな形なら本当に先生方が本当に主体的な学びをつくっていけるかというところは、それぞれの先生方、それぞれ課題はお持ちかと思いますので、そこを合わせて進めていきたいと思います。

研修の分野は、教育センターが主で担っているところがあり

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

	ますので、指導課と一緒に考えながらどんなことができるかを検討していきたいと思います。
苦野一徳 委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>ついこの前、主任管理職研修に毎年ご一緒させていただいていて、そこでもお話をしたんですけど、こういった自由進度学習なんんですけど、いわゆる個別最適な学びと協働的な学び、それから探究を中心としたカリキュラム、こういったものに学びを転換することで、ある自治体が一番しんどい地域の学校が、これまで全国学調、その自由進度学習の中で一番しんどかったんですけど、何と数年で一番上位になったというような例があって、こういったエビデンスがあるので、つまりそういう学びの在り方に転換していくれば、いわゆる学力も全国学調だけではなく学力も伸びるという、これは一つの強力なエビデンスになると思うので、予算獲得されるのであれば、と思っております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ありがとうございます。あとで予算の話もありますので、そのときにぜひ話を聞かせてください。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>では、ほかになければ本件は以上といたします。</p>

【非公開の審議】

日程第3 議事

- ・議第64号 熊本市立学校の教育職員の給与に関する条例及び熊本市立学校の教育職員の給与等に関する特別措置条例の一部改正について

《上村清敬 教職員課長 提出理由説明》

〔採決〕 〔原案どおり承認された〕

日程第4 協議

- ・協議(1)令和8年度当初予算要求の概要について

《吉里麻紀 教育政策課長 説明》

令和7年(2025年)10月 教育委員会会議録【10月23日(木)】

〔閉会〕

遠藤洋路 教育長

ほかにはいかがですか。よろしいですか。
では、ほかにご発言がなければ、以上で令和7年10月定例
教育委員会会議を閉会いたします。お疲れさまでした。